

歴史性を活かした水戸市の魅力づくりに関する研究

地域振興整備公団 正会員 佐々木 光広
 茨城大学工学部 正会員 山形 耕一
 茨城大学工学部 正会員 吉野 孝子
 茨城大学工学部 正会員 金 利昭

1. はじめに

茨城県水戸市は、茨城県の県都であると同時にかつては尾張家、紀伊家と並ぶ徳川御三家の一家水戸家として栄えた城下町であり、また偕楽園や千波湖に代表される豊かな自然、旧弘道館や水戸城跡など特異な歴史を象徴する多くの歴史的施設が残されており、水戸市総合計画においても「水と緑と歴史の街」を目指している。しかし、水戸市は比較的東京に近い都市であるためか、大都市を模倣するかのような開発が目立ち、水戸の街が本当に歴史の感じられる街であるかという疑問が残る。

本研究では、都市の魅力としての「歴史性」を「歴史が現在の街のなかに根付いていること」と解釈した。すなわち、歴史上の事実や歴史的施設が単に博物館的に存在しているだけではなく、歴史を理解し、感じさせる装置が整っていることや、市民の活動のなかに伝統行事や伝統工芸が溶け込み、都市の文化や市民生活のリズム、更には工芸デザイン等にわたって発想の源泉となるものを提供していることがあってこそ歴史が都市の個性化に寄与し得るものであると考えた。〔図-1〕そして、歴史という素材を活かすための都市装置や行事の在り方を探ることにより、水戸市の魅力づくりのための方針を検討している。

2. 研究の方法

本研究では、「歴史性」が街づくりに活かされている例として石川県金沢市を取り上げ、水戸市26箇所、金沢市24箇所の歴史施設現地調査、更に、各種観光ガイドブック¹⁾等による文献調査を行い、得られたデータを基に、①歴史施設の管理保存状況 ②歴史施設周辺の整備状況 ③施設管理と周辺整備の関連 ④歴史施設周辺の視覚対象物 ⑤歴史施設へのアクセス性 ⑥歴史施設周辺の色彩

⑦市条例 ⑧お祭りと歴史施設の関連 ⑨お祭りにみる地域特性 ⑩伝統芸能とお祭りの関連 ⑪名産品・郷土料理等にみる地域特性の11項目において、水戸市と金沢市における比較分析を行った。

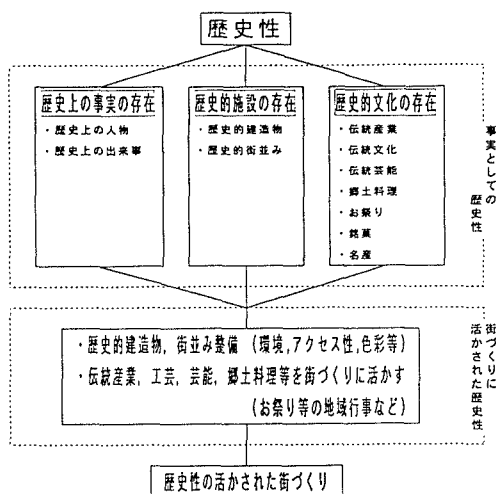


図-1 「歴史性」の概念図

3. 水戸市と金沢市における歴史性の現況比較

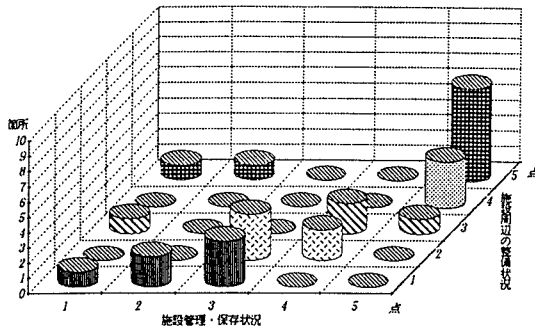
水戸市と金沢市の街づくりににおいて、「歴史性」がどのように活かされているかを知るために、先に挙げた11項目での比較分析を行った。

1) 歴史施設管理保存状況と周辺整備状況との関連

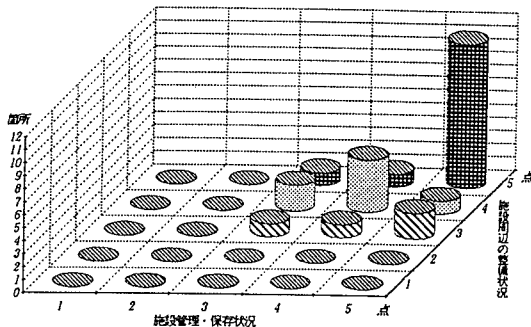
図-2は歴史施設の管理保存状況と歴史施設周辺の整備状況をそれぞれ5段階（1:非常に悪い～5:非常によい）で評価し、これをクロス集計したものである。

水戸市では、歴史施設の管理保存においても必ずしも十分ではない（平均点；水戸市:3.0、金沢市:3.4）のみならず、施設周辺部の整備が立ち後れている。（平均点；水戸市:3.5、金沢市:4.4）水戸市では、歴史的街並み整備等の事業が実施されているのは、偕楽園や弘道館周辺に限られ、歴

史を演出する装置に欠けている。また、各歴史施設が孤立し、連続的な環境形成への配慮が欠ける。これは、金沢市が、1968年には「金沢市伝統環境保存条例」をいち早く制定しているのに対し、水戸市では1992年に「都市景観条例」を制定したに留まり、時期的のみならず伝統環境への力点の置き方の立ち後れにも表れている。



施設管理・保存状況と施設周辺の整備状況との関連図（水戸市）



施設管理・保存状況と施設周辺整備状況との関連図（金沢市）

図-2 歴史施設管理保存状況と周辺保存状況

2) お祭り（年中行事）と歴史施設の関係

歴史的施設を活かしたお祭りの状況について、水戸市と金沢市での比較分析を行った。

その結果、水戸市では7施設（26.9%）でお祭りが行われているのに対し、金沢市では14施設（58.3%）で行われており、2倍以上の差があることが分かる。歴史施設を活かしたお祭りは、季節感等市民生活のリズムや歴史に対する市民意識の高揚、歴史施設を活かした街づくりを行うため

にも有用であると考えられる。水戸市においては歴史施設を活かしたお祭り等の育成が必要である。

3) 伝統芸能とお祭りの関連

伝統芸能がお祭りとして行われている例に着目し、伝統芸能とお祭りの関連について分析した。

水戸市では、5つある伝統芸能のうち、お祭りとして活かされているのは2つ（40%）だけであり、一方、金沢市では、9つのうち5つ（56%）の伝統芸能がお祭りとして活かされていることが分かった。伝統芸能が広く住民に意識され、街の「歴史性」となるためには、多くの住民に知ってもらう必要がある。[表-1]

	水戸市	金沢市
伝統 芸能	藩邸全国大会決戦会 大車のおさらばやし	加賀萬出初め式、山王悪魔払い リョウガラ節、いやさか踊り さかた踊り

表-1 お祭りとして活かされている伝統芸能

また、陶芸・漆器・織物・料理・菓子等にわたる伝統工芸や産業が脆弱であることも水戸市の歴史性の弱さの原因となっている。

4. まとめ

本研究では、歴史的施設に加え、伝統産業やお祭り、郷土料理等を含めた「歴史性」という観点から、水戸市、金沢市の街づくりを比較分析した。その結果、水戸市、金沢市共に多くの歴史資産を持っているものの、水戸市では歴史と現在との間に断絶があり、歴史が街の景観のなかにも、市民の生活のなかにも溶け込んでいない点が指摘できる。

今後、水戸市が魅力的な街として発展していくためには、このギャップを埋めるためのハード・ソフトにわたる工夫が必要であり、歴史施設と調和する周辺整備や統一性・シンボル性を持たせる歴史施設整備、更に歴史施設を活かしたお祭りの等の育成、伝統産業の復元、名産品・郷土料理等を市民に紹介する機会の充実など「歴史性」を街づくりに活かしていくことが必要である。

《参考文献》

1) るるぶる城、るるぶ金沢能登；日本文芸社、1993